

1 主題名 生まれてきてよかったな 3-(1)

資料名 大切なたからもの(出典 彩の国の道徳 道徳教育指導資料集 「きょうもげんきに」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、低学年の内容項目3-(1)「生きることを喜び、生命を大切にすることをねらいとしている。これは、自然や崇高なもののかかわりに関することの中の「生命の大切さ」に関することであり、生命あるすべてをかけがえのないものとして尊重し、大切にすることを育てようとするものである。

この指導内容は、中学年では、内容項目3-(1)「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」へと発展し、現実性をもって死を理解できるようになった中学年の段階で、生命の尊さを感じ得るように指導することが必要とされている。さらに、高学年では、内容項目3-(1)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」へ発展し、様々な人々との支え合いの中で一人一人の生命がはぐくまれることや、生命が祖先から自分そして子孫へと受け継がれていくことを通して、生命のかけがえのなさを自覚できるようにすることが重要とされている。

生命を大切にすることはすべての教育の基本であり、すべての道徳性は生命が大切にされてはじめて成り立つものである。ここでは、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることになるが、人間のみならず、生きているものすべての生命の尊さにも価値を置きながら考えなければならない。社会的なかわりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生命の尊厳性など、多角的な視点から考えを深めていくことが重要である。

低学年においては、生命の尊さを知的に理解するというよりは、具体的な出来事や身近な経験を通し、生きていることの証や喜びを実感させることで生命の大切さを自覚させることが求められている。そこで、低学年の児童でも身近な経験である兄弟誕生を通して、生命の大切さに気付かせ、自分や他の生命を大切にすることを育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、9月の校外学習で「子ども動物自然公園」へ行き、ふれあいコーナーでうさぎやモルモットのふれあい体験をした。その際、動物の柔らかさや温かさを通して生き物に対する愛情を感じ、慈しむように優しくうさぎやモルモットをなでる児童も多かった。また、生活科で育てた野菜の生長を楽しみながら水をやったり、休み時間には三角池や校庭でバッタ等の昆虫を見つけて喜んだりする児童も見られた。しかし、生命は当たり前なこととして深く考えずに生活し、自分の命と同じように他の生命も大切なものであるということに、十分に思いが至っているとは言えない。

また、現代社会では、凶悪犯罪の低年齢化、ゲーム中心の遊び、大人社会のモラルの低下など、様々な問題が起きている。このような社会的背景の中で、子ども達にとって生命の大切さについて学ぶことは重要であると考えられる。

児童の実態を把握するため、以下のような意識調査を行った。

1. 兄弟はいますか。 ・いる…92% ・いない…8% 誰がいますか。 兄…35% 姉…27% 弟…27% 妹…23% <延べ>
2. 兄弟がいると、どうですか。 ・けんかする…42% ・一緒に遊べて楽しい…35% ・いたずらをする…12% ・かわいい…4%
3. 身近にいる赤ちゃんの世話をしたことがありますか。 ・はい…54% ・いいえ…46%
4. 家族に大切に思われているのは、どんな時だと思いますか。 ・病気をした時…39% ・ご飯を作ってくれる時…35% ・叱ってくれる時…8% ・どこかに連れていってくれる時…4% ・家族のために働いてくれている時…4% ・分からない…8%
5. 自分が生まれた時の話を聞いたことがありますか。 ・ある…77% ・ない…23%
6. あなたのたからものは何ですか。 ・家族…65% ・命…23% ・ゲーム機…12% ・おもちゃ…12% ・妹…8% ・人形…8% ・貯金…4% ・ランドセル…4% ・両親が買ってくれた机…4% その訳を書きましょう。 ・自分を心配したりかわいがったりしてくれる…19% ・かわいい…12% ・大好き…12% ・死んだらなくなる…12% ・優しい…8% ・ご飯を作ってくれる…8% ・いつも一緒だから…4% ・家族がいたから自分が生まれた…4% ・お父さんが作ってくれた…4% ・お金があれば好きなものを買える…4% ・その他…16%
7. 生まれてから今までで、嬉しかったことは何ですか。 ・家族との旅行…39% ・家族が優しくしてくれた…23% ・貯金が増えた…8% ・妹が生まれたこと…4% ・リレーの選手になった…4% ・一輪車に乗れるようになった…4% ・生まれたこと…4% ・大きな震災に合わずに成長できたこと…4% ・分からない…12%

意識調査の結果から、兄弟がいる児童が全体の92%を占めるが、一人っ子も2人(8%)いる。兄弟がいると楽しい反面、けんかもするという日常がある。赤ちゃんと実際に遊んだり世話をしたりしたことがある児童は約半数であった。自分が生まれた時の話を聞いたことがある児童も多く、家族とのふれあう時間を楽しみにしていることが分かる。

「たからものは何ですか」という問いには、家族や命と答える児童が多かった。いつもそばにいて自分のことを支えてくれる家族を大切にしている気持ちが伺える。また、広島での土砂災害のニュースを受けて、改めて生きていることのありがたさを感じている児童もいた。嬉しかったことについては、家族や人との関わりから考えている児童がほとんどであった。しかし一方で、おもちゃやお金など、目に見える物質的なものをたからものと考えている児童もいた。

このような子ども達に、日常の基盤である家族から自分がどんなに大切に思われているかということに気づかせ、自分の命を大切にしようという態度を育てることにより、他の生命についても大切にしようとする心情を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公「春人」の心の変化を中心に展開している。春人に弟が誕生した。春人は弟の誕生の喜びと共に両親にかわいがられている弟を羨ましく思う。お母さんやお父さんの言葉から自分の誕生も父母や家族に祝福され、家族の願いが込められた名前をもらったことに気付く。その後、自分とつながりのある生命の誕生を喜ぶとともに、その生命が『いちばんのたからもの』と気付き、元気がもりもりわいてくるという話である。

ここでは、春人と家族のかかわりから、人と人との互いにかげがえのない存在になっていることに気付き生きている喜びを感じて命の尊さに気付くという主人公の気持ちの変化に共感させたい。そして、一人一人の命が親や周りの人々から大切にされていることを実感させ、自他の生命を大切にすることを高めていきたい。

そこで、次の点に配慮しながら指導していきたい。

- ①生まれて間もない弟をだっこさせてもらった場面では、弟が生まれた喜びや愛おしさをおさえ、共感させたい。
 - ②お父さんとお母さんが弟を「うちのたからもの」と話すのを聞いて、羨ましくなり下をむいた場面では、弟をうらやましく思う気持ちや寂しさに気付かせ、弟の誕生を素直に喜べないでいる主人公の心の内を考えさせたい。
 - ③お父さんとお母さんから「春人もわたしたちの大切なたからもの」という話を聞いた場面では、家族の気持ちを知り、うれしい気持ちになった主人公の心の変化をつかませたい。そして、自身の命を尊んでくれている家族の存在に気付き、生きる喜びを感じている主人公の姿を捉えさせたい。
 - ④弟のことを「いちばんのたからもの」と思い、元気がわいてきた場面では、兄として弟を大切にしたいというやる気の漲る主人公の満足感を捉えさせ、本時のねらいに迫りたい。
- 以上のことに配慮しながら、自他の生命を大切にしようとする心情を育てていきたい。

3 研究主題とのかかわり

「豊かな心を持ち、よりよく生きる児童の育成」

～心を耕す道徳の授業実践を目指して～

○低学年のテーマ

楽しく取り組める道徳の時間

上記のテーマにせまるために、本学級では、次のような手立てで授業を行う。

(1) 本時の具体的な手立て

- 導入** ・「たからもの」という言葉に焦点を当て、児童の意識調査の結果を基に話し合うことにより、資料への興味関心を高めるとともに、ねらいとする価値への方向付けを図る。
- 展開** ・児童が資料の内容を把握しやすいように紙芝居を活用し、資料提示の工夫を図る。その際、弟をだっこして弟の誕生を喜んでいる場面や、お父さんとお母さんが弟を「うちのたからもの」と話すのを聞いて、羨ましくなり下を向いた場面などの場面絵を付け足すことにより、主人公の気持ちの移り変わりに着目させたい。
- ・生まれて間もない弟をだっこさせてもらった場面では、赤ちゃん人形を見せ、その小ささやかわいらしさを感じさせて、弟が生まれた喜びや愛おしさを感じ取らせたい。
 - ・(3)の場面においては、ねらいに深く迫るために、教師と児童による役割演技を取り入れ、お母さんに「大切なたからもの」と言われた時の主人公の気持ちを捉えさせたい。そして、「くすぐったい気持ち」を実感としてつかませ、主人公の喜びを表現させたい。
 - ・事前に、保護者に我が子が生まれた時や成長していく喜びを手紙に記してもらい、その手紙を読むことで、主人公の喜びを自分自身の喜びとして実感させたい。そして、自身の命を尊んでくれている家族の存在に気付き、生きる喜びを感じるとともに、一人一人の生命がかげがえのないものであるということに気付かせ、ねらいとする価値に迫りたい。
- 終末** ・ゲストティーチャーとして招いた保護者から、我が子を大切に思う気持ちを話してもらい、生命の尊さや生きる喜びを印象付け、自他の生命を尊重する実践への意欲をもたせ、これからの自己の生き方につなげていけるようにしたい。

全体を通して、児童の自由な発言を大切に、それらを教師の言葉でつないでいながら、授業を構成していきたい。

(2) 総合単元的な道徳学習

「生命尊重」の価値の道徳学習の計画として、道徳授業（本時）を中心に据え、事前指導と事後指導の中で、関連する道徳資料・豊かな体験活動・各教科を展開していくことによって、総合的に道徳の時間を充実させ、道徳的実践力の育成を図る。

4 他の教育活動等との関連（総合単元的な指導の全体構想）（別紙）

5 ねらい

○生きることを喜び、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

6 学習指導過程

☆中心発問

段階	主な学習活動	形態	予想される児童の反応	・教師の働きかけ ◎評価	時間
導入	1 題名から、自分の宝物とその訳について話し合う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、命、ゲーム機〈訳〉 ・優しいから ・一つしかないから ・楽しいから 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考える宝物について話し合うことで、資料への興味関心を高め、ねらいとする価値への方向付けを図る。 	3分
展開	2 資料の要点を知る。	一斉		<ul style="list-style-type: none"> ・絵を活用しながら、主人公や登場人物、条件・状況をしっかりおさえる。 ・主人公ーぼく(春人) ・相手方ーお父さん、お母さん、弟(広人) 	10分
	3 資料「大切なたからもの」の紙芝居を見る。			<ul style="list-style-type: none"> ・聞く観点を提示し、主人公(春人)の立場で考えられるようにする。 ・資料の内容を理解できるよう、間を取りながらゆっくり資料を提示する。 	
	4 主人公(春人)の気持ちについて、心に残ったことを発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ・おとうとをだっこさせてもらったところ。 ・おとうとがうらやましくて、下をむいてしまったところ。 ・ぼくも「たいせつなたからもの」と聞いたところ。 ・元気がもりもり、わいてきたところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童の捉え方を大切にし、どの考えも温かく受け入れる。 ・心に残ったことを中心に話題の整理と確認をして、話合いの方向付けをする。 <p>◎本時の話題を自分達の課題として受け止めることができたか。 (発言・感想)</p>	

ふかめる

5 「春人」の気持ちを中心に話し合う。

(1) 生まれて間もない弟をおそろおそろだっこさせてもらった時の春人の気持ちを考える。

生まれて間もない弟をおそろおそろだっこさせてもらったぼくは、どんな気持ちだったでしょう。



ふかめる

(2) お父さんとお母さんが弟を「うちのたからものだよ」と話すのを聞いた時のぼくの気持ちを考える。

お父さんとお母さんが弟を「うちのたからものだよ」と話すのを聞いて、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。



一斉

☆

(3) 春人も弟も「大切なたからもの」と聞いたぼくの気持ちを考える。

ぼくも弟も「大切なたからもの」と聞いたぼくは、どんな気持ちになったでしょう。

一斉

- ・かわいいな。
- ・うれしいな。ぼくの弟だ。
- ・お兄ちゃんだよ。いろいろ教えてあげるね。

一斉

- ・うらやましいな。
- ・弟はお父さんとお母さんにたからものと言われていいな。
- ・ぼくより弟の方が大切なのかな。さびしいな。
- ・ぼくはいなくてもいいのかな。
- ・お母さんを取られちゃう。

一斉

- ・うれしいな。
- ・がんばろう。
- ・ぼくもたからものでよかった。

- ・赤ちゃん人形を見せて、春人の気持ちを考えさせ、弟が生まれた喜びを共感させるとともに、小さな命の尊さ・愛おしさについて考えさせたい。

◎弟が生まれて喜んでいる気持ちをとらえ、共感できたか。



(発言・観察)

- ・下を向いて寂しそうな主人公の表情に着目させることにより、弟の誕生を喜びながらも、弟を羨み、自分に対する父母の愛情が減ってしまったかのような主人公の寂しさに十分共感させたい。そして、家族との関わりが主人公にとっていかに大切かということに気付かせたい。

◎羨ましさと感じている春人の気持ちを感じ取ることができたか。(発言・観察)

- ・春人が生まれた時のことを語る母親の言葉に着目させることにより、春人に対する家族の愛情に気付かせたい。

- ・お母さんに「大切なたからもの」と言われた場面を教師が母親役・児童が春人役になり、役割演技で再現し、自分の誕生も家族に祝福され、弟と自分が同じように大切にされていると知った、主人公の

		 <p>(4) 弟のことを「いちばんのたからもの」と思い、元気がもりもりわいてきたぼくの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>弟のことを「いちばんのたからもの」と思ったぼくは、元気がもりもりわいて、どんなことを思ったでしょう。</p> </div> 	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも大切に思われてきたんだ。 ・いいお兄ちゃんになるぞ。 ・弟をずっと大切にするよ。 ・たからものがふえた。 	<p>喜びに共感させたい。</p> <p>◎自分が大切にされていることを知った春人の喜びを実感できたか。 (役割演技・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とつながりのある命の誕生を喜ぶとともに、自身の命を尊んでくれている家族の存在に気づき、生きる喜びを感じている春人の気持ちを、ワークシートに書くことにより、じっくり考えさせ、ねらいに迫りたい。 <p>◎生きる喜びや生命の大切さに気づいた春人の気持ちを自分なりに書くことができたか。 (ワークシート・発言)</p>	
見 つ め る	6	家の人からの手紙を読む。	個別		<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保護者に書いていただいた手紙を預かっておき、一人一人に手渡し、読ませることで、自分に対する家族の思いを実感させ、今を一生懸命生きていこうとする態度や、家族とともに力強く生きていこうとする意欲を高めたい。 ・プライバシーの保護には十分配慮する。 	5 分
終 末 心 に と め る	7	ゲストティーチャーの話聞く。	一斉		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの話を通して、ねらいとする価値への印象付けを図り、実践への意欲をもたせたい。 ・話を聞いている間はBGMを流し、優しい雰囲気をつくるようにする。 	3

7 評価

(1) 主人公の気持ちになって、ワークシートに書いたり、自分の考えを深めたりすることができたか。

(発言・ワークシート・観察)

(2) 生きることを喜び、自他の生命を大切にしようとする気持ちを持つことができたか。

(発言・観察)

8 板書計画 (別紙)

9 事前・事後指導

(1) 事前指導

- ・「夏休みの思い出発表会」を行うことにより、家族との心のつながりを振り返らせ、家族と共に生きる喜びに気付かせる。
- ・生活科で生き物とふれあうことにより、生命の尊さに関する意識を高めておく。

(2) 事後指導

- ・帰りの会の「友達のよいところ」コーナーで紹介されたことを賞賛し、次の実践へとつなげるようにする。
- ・学年便りや懇談会で話題として取り上げ、家庭と連携を図りながら生命を大切にしている心情を育てていく。
- ・生活科の「こんなに大きくなったよ」の単元で、生まれてから今までの自分の成長の様子をまとめていき、自分の成長を支えてくれた人々に、感謝の気持ちを伝えようとする気持ちを高める。

10 資料吟味表 (別紙)